

様式 3

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会				
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)			
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)			
	公園課	電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 2 2 (直通)			
開催日時	平成 3 1 年 3 月 3 0 日 (土) 午前 8 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 0 0 分				
開催場所	相模原市立図書館ほか				
出席者	市民検討会 委員	2 4 人 (別紙のとおり)			
	有識者協 議会委員	6 人 (別紙のとおり)			
	その他	9 人 (図書館総括副主幹等、各施設担当者)			
	事務局	1 4 人 (都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 1 1 人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	3 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由					

会議次第	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 まち歩き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館 ・鹿沼公園 ・大野北公民館、まちづくりセンター ・さがみはら国際交流ラウンジ ・あさひ児童館 ・青少年学習センター ・自転車駐車場 <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) グループワーク (2) 講評 <p>4 その他</p>
------	---

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 経 過

生涯学習課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと傍聴の確認を行い、淵野辺駅南口周辺の公共施設等を見学するまち歩きを行った。

2 議 事

まち歩きの後、プロミティふちのベビルの会議室に集合し、グループワークを行った。

主な内容は次のとおり。

(1) グループワーク

< Aグループ >

- ・ 1番多く意見が出たのが、建物が古いということ。その中でも、残していくべきものと更新していくべきもの、2つの要素があると考えた。
- ・ 全体的にゆったり感がある。また、居心地の良いところ、駅に近いところ、市民の主体性を大事にしているところ、市民の多様性に対応しているところとされているところがあり、こうした良い点は残していくべきだと考えた。
- ・ 老朽化による安全性の低下は確実に更新する必要がある。
- ・ 駐輪場や図書館の学習スペースは時代のずれを感じさせ、時代の変化に合っていない。
- ・ 時代に合わせて新しくしていく必要がある。

< Bグループ >

- ・良かった点は、全体的に地域の人たちがまちに馴染んでいる感じがしたこと。例えば、公園の居心地の良さや、青少年学習センターが地域に密着している雰囲気があったこと。
- ・気になった点は、図書館が暗く、建物が古いところである。図書館などの壁紙を市民と一緒にペンキで塗るイベントを開催するなど、市民と一緒に修繕するとより良い空間ができ、今後に繋がっていくのではないかと。

< Cグループ >

- ・良かった点は、公園には自然が多いことや、図書館職員の対応の速さに職員が努力がみられたこと。
- ・青少年学習センターのホールの設備や運営の仕組み、駐輪場が駅に近いところが良かった。
- ・気付いた点は、図書館の書架が置いてあるフロアに人が少なく、スペースが少ないこと。
- ・公園では自転車の走行や、砂利道が多くて滑りやすく危ない等の意見があった。
- ・全体的に人や施設が駅周辺に集まっているので、利用率がそれだけ高いことはとても良かった。
- ・図書館等の施設の駐輪場や駐車場が無料になっていることで、施設を利用しない人の利用も多いのではないかと。
- ・淵野辺駅南口周辺の自転車の利用については、平日の朝の状況など、時間帯や曜日を変えて見てみないと本当の姿が見られないのではないかと。
- ・自転車だけではなく、ベビーカーや車いすを使う人はどう感じているのか。

- ・近隣の公園を参考にするため、見学してみてもどうか。

< Dグループ >

- ・良かった点は、委員それぞれの着眼点があり、いろいろな意見があったが、あまりまとまらなかった。
- ・気になった点の方が多く、建物の老朽化に端を発し、そこから施設の狭さや暗さ、使いにくさ等の課題が出てきたという印象だった。
- ・もう少し、働いている人の声を聞いてみたいなど、いろいろと発展した意見が出た。
- ・一般的な議論ではなく、市民検討会をもっと具体的な議論の交換で終わらせたい。
- ・この見学会から最終的に自分たちが決めていかなければいけないことについて、どのように行政に伝えられるのか、という道筋が見えづらく、具体的に想像ができない部分があると感じた。
- ・自分たちがどこまで関わり、どこまで意見できるのか、という不安がある。

< Eグループ >

- ・良かった点、気になった点、どちらも施設に関することが多く出た。
- ・良かった点は、全体的にバリアフリー化された施設がとても多かったこと。
- ・実際に車いすを利用する方の声は聞けなかったが、配慮された設備等を見て説明が聞けたのが良かった。
- ・数字的に見て、利用者数や満足度が高いことなども聞けて良かった。
- ・気になった点は、老朽化や図書館が暗いなど、他のグループと同じ意見が出た。
- ・施設利用者ではない人が自転車を置いているので、駐輪場を増やしたほうが良いのではという案も出た。
- ・今思ったことや意見などをいろいろな人が同じように持っていると思うが、その意見を聞く場が実際にどこにあるのかわからない。利用者の声を聞くカードを設置するなど、工夫が必要ではないか。
- ・行政に頼り過ぎず、一緒にやってみようという行動計画を立てるのも必要なのではないかと思った。

(2) 講 評

・小山委員

2点ある。1点目は、この市民検討会での議論を通じて、私たちが考えるまちな姿、あるいはテーマを共有する必要があるということである。今回のまちづく

りによって生み出される生活や環境など、どのようなまちにしたいのかといったテーマの共有が重要である。例えば今日、まち歩きをして、国際交流ラウンジと図書館がとても近い関係にあると感じたが、そこでどのような交流が行えるかなど、それぞれの公共施設の間にいろいろな接点のようなものがあることを強く感じた。こうした視点をまちづくりに生かせるのではないかと考えた。

もう1点目は、それぞれの公共施設で働く人のことである。図書館のバックヤードを見学して、それらに関する発言もいくつもあったが、ただ単にちょっとした場所を確保すれば良いのではなく、働きやすく機能的な場所を用意することが重要であると強く感じた。このことは、他の施設でも同様であると考えている。

・小島委員

駅の周りに拠点があってとても住みやすい場所だと感じた。その中でも、いろいろな方々が様々なサービスを受けられる状況になっていて素晴らしい。今回のテーマとしては「次世代に引き継ぐ」というのが大きなキーワードとなり、どのように引き継いでいくのか、そこを考え、具体化できればこの検討会の意義があるのではないかと考えた。

また、若い世代と一緒にやりたい、何か変革があったときに関わりたいという気持ちがとてもあるので、老朽化した建物の修繕と一緒にやるプログラムなど、次のステップに私たちが関われば面白いのではと考えた。

・山本委員

残すものと変えるものがあると気付いた。それが何かは、これから皆さんが話し合う中で、大事なものと今日キーワードとなった「老朽化」をどうしていくかを考えていかなければいけない。ただ、それらはハード面であり、まだ後のこと。それより先にやらなければならないことは、直接市民が何かできるのではという考えのもと、人のつながりがあって、そこが何かまた1つの場となるのではないかと考えた。まちづくりにはハードとソフトがあり、一番先にできるのがソフトで、ソフトから動けば来月にはできる。そこから始めていけば、きっとこのまちはどんどん良くなっていくだろう。今日は若い方が参加し、それを発言してくれたことが、まちづくりという立場から参加している私としては、すごく嬉しかった。

1つひとつの市民の小さな動きが、最後、次世代の素晴らしい淵野辺のまちづくりに繋がっていくと確信できたというのが発見であった。

・野口委員

便利さと豊かさは、必ずしもイコールではないと思っている。意見を言葉にして言うときに、どうしても出しやすい言葉になり、便利さを強調しがちになって

しまう。不満のところがあって、そこを解決していくのは、マイナス1からゼロにしかない。例えば、座るところがないから、座るところを作る、それだけ。ではなくて、豊かさというものがどういうものを改めて考えたうえで、テーマを決めていけると良いと思う。

まちづくりは結婚に似ていて、粗を探すと止まらない。便利さを求めると不満が出てくる。そうではなく、豊かな家庭を築こうと思えば、色んなことが我慢できるし、色んなことがプラスに見えてくるかもしれない。

・押田委員

皆さんの話を聞いていて良かった点は、立地や歴史、図書館や鹿沼公園のシンボル性など、すべての班から何かしら淵野辺の地域に誇りを持っていると感じられた。だからこそ、気になることや不満があるなど、すべてに共通して古さを感じたり、キャパシティの不足があると思うが、各班の不満の点で出てきた内容がハードの話であり、施設を個別に見ているので、施設間のつながりがないことが非常に気になった。この計画が出てきたときに、集約するとの話があったが、施設の問題しか見ていないというのが今日の大きな課題だと感じた。

今後はまち全体を見るために、相互に利用している人がどんな人がいるのか、利用する立場で考え、そこを追いかけていくことが大切である。

ソフトというのは、交通や人・物・時間など、いろいろなものが動いていくので、その動きの中で、どんなまちをつくりたいかという像が自分も含めて見えていない。どういうふうに、誰が住んでいるまちにしたいのかを皆で整理したい。今日初めて知ったこともあり、まち自体を知らないことも多い。例えば、駅の南側と北側で雰囲気異なることや、橋本と相模大野に次いで乗降客数が市内で3番目に多いことなどである。人口70万人を超えるまちで3番目というのはすごいキャパシティを持っていて、大きな可能性を持っているということであるが、全部の要望を取り入れると壊れてしまうので、どんな議論を今後繰り広げていくのかというのが今後の宿題である。参加している施設の方々にもつながりなどを教えてもらいながら、勉強をさせてもらえたらと思う。

・鈴木委員

改めて古いと感じたが、古いからこそ、市民がペンキを塗っても大丈夫だとか、何をやっても大丈夫だということがあるので、古いことを逆手にとって何かをするというのもありなのでは、と思った。

今回はハード面に目がいった。ただ、その中で職員がどのような役割を果たしているのか、また市民がどういう形でそれに関わろうとしているのか、そもそもそういう施設にはどういう役割が期待されているのか、そのようなことも考えて

検討していかないといけない。いきなり全部をなくしてしまえとか、全部を一緒にすれば良いという話になるとおかしなことになってしまうし、色々難しいと考えさせられた。

3 その他

事務局より、次回第3回市民検討会は5月下旬の開催を予定しており、詳細については、決まり次第お知らせする旨を伝えた。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠
飯田 秀雄	出席
飯高 千里	欠席
植田 憲司	欠席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
佐野 玲希	出席
白石 一郎	出席
畑 耕一	出席
山林 亮太	出席
渡辺 章	欠席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠
安達 和夫	出席
内田 清	欠席
太田 裕	出席
小方 明	出席
小野澤 行雄	出席
佐伯 明美	出席
瀬戸 凌太郎	出席
高柳 眞木子	出席
平本 峻	出席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	欠席
荻原 ますみ	出席
岸本 孝史	出席
黒田 久也	出席
城田 大介	出席
狭間 宏明	出席
北條 幸治	出席
前田 智恵子	出席
山本 有紀	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠
押田 佳子	出席
小島 仁志	出席
小山 憲司	出席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	欠席
山本 匡毅	出席